

発行：宮城県仙台農業改良普及センター（仙台地方振興事務所農業振興部）

〒981-8505 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号

TEL 022-275-8320（地域農業班）

022-275-8410（先進技術第一班）

022-275-8374（先進技術第二班）

FAX 022-275-0296（共通）

E-mail sdnokai@pref.miyagi.lg.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/site/sdnk/>

令和2年度プロジェクト課題，重点活動の紹介

■(株)イグナルファーム大郷（大郷町）

令和元年東日本台風で壊滅的な被害を受けたが、本年4月に営農を再開した
（新規プロジェクト課題）

農業の生産力の維持・拡大を！

人口減少，超高齢化社会の中での農業

宮城県の2019年の人口は約230万人ですが、推計によると25年後には50万人減少して約180万人になり、40年後には150万人を割り込むと推計されています。

一方、農業生産場面に目を転じれば、担い手の減少や高齢化は数字を上げるまでもなく厳しい状況となっています。

日本の食料自給率は37%と10年前の41%から4ポイントも低下している事を見ても、国内農畜産物の供給力は着実に低下し、食料を海外からの輸入に頼らざるを得ない状況が続いており、農業県である本県にとっては、農業で暮らしを支える人や地域が多いだけに大きな課題です。

そして現在の新型コロナウイルスによる禍(わざわい)です。ウイルスは猛威を振り続けており、世界中の人とモノの動きは止まり、世界は同時不況に陥りました。日本だけでなく、世界中の人々

の命と暮らしが脅かされています。

新型コロナウイルスによって世界は変わる

そして大事な点は、この災禍により世界が変わると言われている点です。ウイルスによる感染拡大が収束したあとの世界がどうなっていくのか、私たちは注意深く見ていかなければなりません。

それは、食料を大きく海外依存している日本にとって、アフター・コロナの世界情勢が日本の農業にも少なからず影響を及ぼすと思うからです。

人口減少・高齢化の中であって、国民に食料を供給する大切な役割をもつ農業の重要性を改めて認識し、先の大震災や昨年の台風で傷ついた生産体制の復旧・復興を図り、地域の農業生産力の維持・拡大に向けた活動に全力で取組まなければならないとの思いを強くしているところです。

仙台農業改良普及センター 所長 門脇正好

令和2年度 プロジェクト課題 (5課題)

NEW! 【新規】 先進的園芸経営体の生産技術向上による経営安定

(株)イグナルファーム大郷 (大郷町)

令和元年東日本台風からの再起!

早期の経営安定化のために収量と作業効率の向上を支援します



令和元年東日本台風被害で全滅したトマト



定植したばかりのトマト苗を前に話し合う阿部社長と普及センター職員

(株)イグナルファーム大郷は、令和元年東日本台風により、施設や設備に大きな被害を受けるとともに、長期休業を余儀なくされ、職員が減少してしまいました。

令和2年4月からミニトマト栽培を再開しましたが、早期に経営を安定させるためには、収量の

向上と作業の効率化が必要です。

そこで、普及センターでは、収量向上のためにハウス内の環境を適正に管理する環境制御技術の向上・活用支援、少ない職員でも効率的に作業が行えるよう作業性の改善、作業マニュアル作成の支援を行っていきます。

【継続】 省力化技術導入による大規模土地利用型経営体の生産性向上

みどりあーと山崎(株)
(大郷町)

【継続】 中山間地域農業を支える地域営農体制の構築

倉内・大針農村地域活性化委員会地域営農部会
(仙台市)

【継続】 GAPを活用した現場力の向上

(株)未来彩園 (大衡村)

【継続】 6次産業部門の改善による経営力の向上

(農)仙台イーストカントリー (仙台市)

令和2年度 重点活動 (6項目)

日本なし産地の育成強化

日本なし産地を次世代に継ぐ活動を支援します

利府町は古くから日本なしの産地として知られており、利府なしは消費者から好評を得ています。しかし、生産者の高齢化により、近年、生産者数や栽培面積が急激に減少しており、産地の維持に不安が出てきています。

そこで、普及センターでは関係機関と連携して、日本なし産地の維持・強化に向けた活動を行っています。具体的には、産地の次代を担う生産者の確保・育成支援をするとともに、これまで産地で培われてきたベテラン農家の技術を産地に浸透させ、栽培技術の高位平準化を図っていきます。



新規就農者等の確保・育成・定着支援

地域農業における将来の担い手の就農及び生産技術・経営管理能力向上を支援します

地域農業の将来の担い手候補となる就農希望者及び新規就農者等に対し、各市町村に設置されているサポートチーム及び担い手育成支援協議会と連携を図りながら、就農相談や就農計画の策定、農業次世代人材投資事業等の活用、生産技術や経営管理能力の向上等について支援を行います。さらに、地域の担い手として早期定着を図るため、仙台地区4Hクラブ等への加入を促し、若手経営者のネットワーク構築を支援します。

また、管内では農業法人における雇用就農も増加していることから、法人経営者と連携した雇用就農者の育成や定着支援を行いながら、地域農業の担い手の確保を支援します。

環境制御システム導入経営体の技術向上

**環境制御技術を向上させ、
トマトの高収量・安定生産を支援します**

現在、トマトを生産している多くの大規模園芸経営体では、統合環境制御機器（ハウス内の温度、湿度等を総合的に制御できる機器）が導入されており、植物体に最適な環境を作ることによって高収量、安定生産を目指しています（＝環境制御技術）。しかし、中には、環境制御技術に関する知識・技術が不足しており、十分活用できていない経営体もあります。

そこで、普及センターでは、定期的な巡回により、環境制御技術に関する知識・技術の向上支援を行い、トマトの高収量、安定生産を実現できるよう支援していきます。



ねぎの生産拡大

**黒川地区のねぎの出荷期間を延長し、
生産量の向上を支援します**

黒川地区は県内でも主要なねぎの産地で、曲がりねぎや長ねぎが栽培されています。特に、曲がりねぎは甘みが強いので、札幌市場でも評価が高く、大きな需要があります。しかし、近年、高齢化や生産者の減少によりねぎの作付面積が減少していることから、その需要に応じることができない状況にあります。

そこで、普及センターでは、関係機関と連携し、生産者の掘り起こしや新規栽培者に対する重点指導、夏ねぎや露地やとい等を活用した出荷期間延長に向けての技術支援を行い、黒川地区のねぎ生産量の向上を支援します。



やとい

大郷町粕川地区の地域農業再編支援

**台風により甚大な被害を受けた地域の担い手の
経営安定、土地利用再編等に係る支援を行います**

大郷町は、令和元年東日本台風による堤防決壊等で、水稻や大豆などの農作物が広範囲に冠水し、水田への土砂流入や用排水路の損壊など、大きな被害を受けました。特に、粕川地区は決壊した堤防が近く、多くの農業機械等が被災した経営体については、補助事業を活用しながら機械等を修繕・再取得するなどして、営農を再開しているところです。

普及センターでは、経営規模の大きい農業法人等を対象に、台風被災後の状況を踏まえながら経営安定に向けた支援を行います。また、当地区では、基盤整備事業の導入に向けた検討が行われてきており、関係機関と連携しながら、地域の話し合い等へ参画し支援を行います。

経営管理能力向上による経営発展支援

**農業法人の経営発展に向けて
課題解決のための支援をします**

普及センター管内においては、東日本大震災により農地や農業用機械・施設に甚大な被害を受けましたが、現在は、復旧が進み、各地域に地域営農の担い手法人の設立や大規模施設園芸法人による野菜栽培への取組増加などの動きが見られるようになりました。

これら多くの法人においては、構成員の高齢化や労働力不足、経営継承、農業機械・施設の老朽化等、様々な課題を抱えていることから、普及センターは関係機関等と連携し、現地巡回やセミナー開催、民間専門家の派遣等により法人の課題解決を図り、経営の安定化のための支援をしていきます。



若手・中堅社員のための社会人基礎力ステップアップセミナー(令和元年度開催)

トピックス

水稻乾田直播の取組が増加しています



省力・低コスト化を目的に取り組まれている水稻直播栽培は、宮城県では、令和元年産水稻作付面積のうち約5%にあたる3,657haで実施され、中でも最近では乾田直播が約40%と伸びてきています。この理由として、代かき作業の必要がなく、早い時期から播種できるなど省力性と作業分散性に優れ、また、麦作用大型機械が利用でき、土地利用型経営体が導入しやすいなどのメリットが挙げられます。

乾田直播は、管内では仙台東部地区を中心に普及が進んでおり、令和元年産の作付面積は139haとなっています。湛水直播より収量性が優れるなどの理由から今年度の栽培面積を大きく伸ばした法人もあり、省力・低コスト化のための有用技術として注目を集めそうです。